

京都市基本計画審議会 第4回融合委員会  
摘 録

日 時：平成22年4月12日（月）18：15～20：45

会 場：京都ガーデンパレスホテル2F 祇園

出席者：

- ・ 秋月謙吾（京都大学大学院公共政策連携研究部教授）
- ・ 浅岡美恵（NPO法人気候ネットワーク代表，弁護士）
- ・ 乾亨（立命館大学産業社会学部教授）
- ・ 上村多恵子（詩人，京南倉庫株式会社代表取締役社長）
- ・ 尾池和夫（財団法人国際高等研究所所長，前京都大学総長）
- ・ 塚口博司（立命館大学理工学部都市システム工学科教授）
- ・ 新川達郎（未来の京都創造研究会座長，同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）
- ・ 西岡正子（佛教大学四条センター所長・教育学部教育学科教授）
- 平井誠一（京都市未来まちづくり100人委員会代表幹事，株式会社西利代表取締役専務）
- ・ 松山大耕（未来の担い手・若者会議U35議長，妙心寺塔頭・退蔵院副住職）
- ◎ 宗田好史（次代の左京まちづくり会議座長，京都府立大学大学院生命環境科学研究科（環境科学専攻）准教授）

以上11名

◎…委員長 ○…副委員長

（50音順，敬称略）

## 1 開会

### 事務局（柴山総合企画局政策企画室長）

ただ今より、第4回融合委員会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、また足元のお悪い中、お集まりいただき、お礼申し上げます。

なお、本委員会は公開とし、報道関係者の席を設けるとともに、市民の方々にも傍聴いただけるようにしている。

本日は、事前に、立石副会長、梶田委員、堀場委員、森委員から欠席との御連絡を、また秋月委員から少し遅れて到着される旨の御連絡を頂戴している。

議題に移る前に、本日お配りしている資料の確認をさせていただきます。

次第、名簿、配席図の後に、資料1、資料2、参考資料、資料3、資料4、資料5、資料6を配布している。それでは、以降の進行は宗田委員長にお願いする。

### 宗田委員長

早速始めさせていただきます。本日、皆様に御議論いただき、承認していただいたものを京都市基本計画第1次案として事務局で整理し、最終的に尾池会長に御確認いただいたうえで、5月下旬を目途に公表したいと考えている。

それでは、議題に移る。はじめに、資料1「基本計画の第1次案の表記方法（案）」に基づき、基本計画の第1次案の表記方法とともに、都市経営の理念、推進の方策等についても御議論いただきたい。事務局から説明をお願いします。

### 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

お手元の資料1について説明させていただきます。この資料では、基本構想について簡単に触れたうえで、次期の京都市基本計画の全体構成を記載している。次期基本計画に盛り込む内容として、1から8までを示しているが、1計画の背景、2基本計画の在り方、8計画の推進については、第1次案ではこの資料に記した程度とし、第2次案に向け詳細な検討を進めたい。

また、都市経営の理念については、未来の京都創造研究会の議論を踏まえた案を、第2回委員会に提示した。その後、第3回委員会において、立石副会長、浅岡副会長、乾委員から御意見をいただいたことを踏まえ、表現を変更、整理しているので御検討いただきたい。

京都の未来像、重点戦略は後ほど説明する。

また、分野別方針は各部会で御議論いただいた結果、前回委員会にお示しした25分野から27分野増え、27分野としている。この方針の並べ方は、市役所の部局の建制順としているが、この並べ方についても御意見があればいただきたい。

### 宗田委員長

ただ今の説明にもあったとおり、与条件の変化や喫緊の課題といった検討の視点・背景、基本計画の在り方を踏まえ、「生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く」という都市経営の理念に基づき5つの未来像を設定するという、これまでの融合委員会における議論の流れを明示している。

第2回融合委員会でも確認した「都市経営の理念」については、第3回融合委員会における立石副会長からの御意見である「生活者の視点」、乾委員からの御意見である「地

域主権」,「参加と協働」といった観点を盛り込んで修正している。

第3回融合委員会においては、未来像相互間の関連性について五角形で示すなどの御議論をいただいたが、このような関連性についても説明している。

以上、これから議論する未来像・重点戦略、行政経営の大綱、分野別方針以外の点について、御議論いただきたいが、御意見はあるだろうか。

特に、都市経営の理念については、未来の京都創造研究会座長であった新川委員が御出席だが、変更してもよろしいだろうか。

———（異議なし）———

## 宗田委員長

それでは、基本計画の構成、都市経営の理念、推進の方策については、御議論いただいた内容で確認したい。

続いて、未来像・重点戦略の第1次案の検討を行う。

5つの未来像に整理された第3回融合委員会終了後、私と平井副委員長が手分けをし、各未来像の分野を御専門とされている融合委員会委員として、浅岡副会長、乾委員及び西岡委員に対し、ヒアリングを実施した。御協力にお礼申し上げます。また、立石副会長にも商工会議所を通じて、御意見を頂戴している。

本日は、その内容を基本に、これまで融合委員会で出された御意見を反映し、未来像の案を作成している。

また、前回の第3回融合委員会では、「重点戦略のたたき台」を提示したが、今回、審議会委員の皆様からの御意見と、行政内部で議論いただいた内容を踏まえ、内容を充実、修正している。皆様から頂戴した意見を基に第1次案を固めて参るが、その後も5月に実施するパブリック・コメントを踏まえ、9月の第2次案策定に向けて、記述内容を肉付けするために、更に検討を深める必要があると考えている。

それでは、事務局から資料2を説明願う。

## 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

それでは、資料2について説明させていただく。今も宗田委員長から御説明いただいたとおり、未来像については、第2回融合委員会の後、宗田委員長、平井副委員長に御検討いただいた後、それぞれの委員に御意見をいただき記述を修正している。

すべての未来像に共通の修正点として、見出しを動詞から「～のまち・京都」と名詞に変えている。と同時に、それぞれの見出しの前に簡潔に未来像を説明する文章を加えている。また、未来像の下に説明文を書いているが、その冒頭を基本構想に倣い、主語を「私たち京都市民は」としている。

重点戦略は委員の御意見、市役所内部の検討を踏まえ、内容の充実を図っている。また、未来像と同じく内容を簡潔に示す文章を追加している。

また、第3回委員会を踏まえた未来像と重点戦略を各部会に提示し、委員の皆様から御意見を頂戴した結果を参考資料としてまとめている。

以上の御意見を踏まえ、個々の未来像と重点戦略、それぞれ大きく修正しているが、時間の関係上、説明は割愛させていただく。

## 宗田委員長

大体、皆様から伺った御意見は反映しているつもりだが、特にヒアリングに御協力いただいた委員の皆様から、補足説明をお願いする。

## 浅岡副会長

「低炭素」について、まだなじみのない言葉かもしれないが、同志社の小原先生が、京都が世界からどのように見られているのかについて述べられた記事が4月2日の京都新聞に掲載されており、その内容に私は非常に同感した。世界において京都という名前が広く知られているのは、キョート・プロトコル（京都議定書）が京都の代名詞となっていることがあり、なぜ代名詞になっているのかといえば、人は面白い物語やドラマに心惹かれるもので、京都議定書が地球規模の新しいドラマの序曲となっているからこそ、世界の人々の心に残っているというものであった。さらに、京都はドラマを感じさせる場所であり続けることができるだろうか、という問いかけもあった。

そのような時代であるということを見ていただくことと、政権交代後の温室効果ガス25%削減の公約がなかなか進まないという現状において、京都がいち早く方向性を示して行動することが重要で、経済の仕組みが動かなければ社会に浸透しない。京都から経済を動かす、社会的、文化的に支える点は非常に重要だと思い、タイトルに入れていただくことに意味があると考えている。

非化石、脱化石という話があるが、単に低炭素社会になれば良いのではなく、豊かさが重要で、何が豊かかということを経都から発信できるものとなっていること、そして、自然というものを本当に重視し、いかに調和するか。低炭素を自然と調和してやっていくのだということが重要で、それを上手にまとめていただいたと思う。

重点戦略についても同様で、低炭素は、ありとあらゆる場面に関わるカギとなるものであり、特にどれを、ということにならないので、まちづくり全体の戦略となっているのも無理からぬことだが、交通の面では具体的に姿が変わっていくことが見えつつあるので、交通の部分を独立して書き、二本柱的になっている。

更に全体をみると、歴史・文化、観光などの個性に関わるものや、産業の牽引力などは日本全体から見ても重要で、それを支える人々などいろんな人に関わるので、五角形の中の星マークの様につなげて提示していただく中で、その位置付けも浮かび上がらせられると思う。そのために、必要なキーワードをちりばめていただいている。

## 乾委員

宗田委員長、平井副委員長等、たくさんの人にヒアリングに来ていただいた内容を、うまくまとめていただいた。未来像には「支えあい自治が息づくまち・京都」という非常に重要なキーワード、ある意味で市民側から最も大切なものを入れていただいた。

重点戦略にも、地域コミュニティの中での住民の自主的行動を行政が支援するという今後重要なキーワードを入れていただき、私の意見や、うるおい部会の意見も取り入れていただいたと実感している。

1点だけ、「生活者を起点に」という点について、立石副会長は「弱い人を起点」というニュアンスだったと思う。行政として弱い人をどうフォローするかが重要で、それを忘れることなく、ずっと残してもらいたい。

未来像が五角形で表現されているが、本当は重点戦略も互いに関連し、十角形の構造を持っている。これから重点戦略を運用する中で、これらをどうつなげるかの感覚を忘れてほしくない。基本的には良くできており、賛成の立場で発言させていただく。

### 宗田委員長

立石副会長の意見に関する御指摘はそのとおりで、心したい。この融合委員会を設置しているのも、未来像、重点戦略を五角形、十角形の取組で進めたいという意図である。

### 西岡委員

ヒアリングに来ていただき、お礼申し上げます。よく勉強して意見を聞きに来ていただき、感動している。

これまでの案では、プロダクトのような形で若者が育つ、であったが、学びのまちとして、「ともに育てる」という生涯学習の京都らしさも入れていただいている。更に「支えあい自治」についても「いのち」と「暮らし」が盛り込まれ、重点戦略にも「子どもを共に育む」、「いのちと暮らしを守る」というすこやか部会で話されたことを入れていただいている。

ただし、「低炭素」を打ち出すことに意義があるとは思いますが、すこやか部会で出た意見として、「いのち」などが未来像のトップに来たほうが良いのでは、というものがあつたので伝えておく。すこやか部会では、立場の弱い人に関わっている委員が多く、「弱者」ではなく、「立場の弱い人」と表現してほしいとの意見もあつた。

また、「参加」と「参画」も、微妙な言葉であり、辞書で見ると「参画」は計画から参加することとなっている。「参画」の方がコミットが強いというイメージがある。男女共同参画においても、男女共同参加型社会から男女共同参加社会となり、今では男女共同参画社会となっている。参加と協働も文章の中では決して悪くはないが、考えていく必要もあると思う。

### 塚口委員

まちづくり部会では、都市像、つまり都市構造の方向を議論した。そして、現在、同時進行的に進められている都市計画マスタープランにおける都市構造の考え方とも合わせようということで、宗田委員長とお話をさせていただいた。その結果を受け、まちづくり部会で議論させていただいたところ、特に大きな意見はなかった。

それから資料2について、この資料は非常によくまとまっているが、1点気になるのは、「安心・安全」は未来像にも重点戦略にもあるが、「防災」という文言が未来像に一言あるだけで、重点戦略には出てこない。もちろんユニバーサルデザイン、福祉とセーフティネットなども重要であるが、防災を入れておいても良いのでは、と思う。

### 宗田委員長

尾池会長とも御相談のうえ、検討したい。次に立石副会長からの御意見を事務局から御紹介いただきたい。

### 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

立石副会長からは、商工会議所事務局を通じて御意見を頂戴した。これまでの立石副

会長の御発言として、雇用は所得増，消費増，地域社会の活性化につながることや，低炭素社会を実現するためには循環型社会の実現が不可欠である，と述べられている。この「循環型社会」とは，決して全地球レベルのことだけでなく，京都の地域レベルで家庭の暮らしや営みに関わる小さくても完結した「循環」がたくさんできて，重なり合いながら地域全体に展開する側面が重要と他の場面で御発言されており，その辺りの趣旨を盛り込み「環境と社会に貢献する産業が育つまち・京都」とした。これについて，立石副会長に確認いただいたが，特に御指摘はいただいている。

#### 宗田委員長

「環境と社会に貢献する産業が育つまち・京都」に「循環」という言葉が出てくるが環境政策での循環と立石副会長の循環を比較すると，立石副会長の循環の方が社会経済を含む広い概念であり，それを考慮してこの形としている。

#### 浅岡副会長

安全・安心，防災の観点について，いま何のためにするのかというと，将来の悪いことを避けるためである。その観点では，「未来世代の安全のため」といった，なぜそれをするのか，という視点が必要だと思う。

#### 宗田委員長

「環境共生と低炭素のまち・京都」，「低炭素型まちづくり戦略」のいずれかで検討したい。

#### 浅岡副会長

未来世代を守るためのことなんだ，ということ 키워ドとすれば，なぜ2050年なのかを含めて説明しやすくなると思う。

#### 宗田委員長

立場の弱い人たちへの配慮，未来の人たちへの配慮を含めて検討したい。

#### 上村委員

確認だが，資料1の基本構想は，2025年までか。2010年ではないのか。

#### 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

基本構想は25年間で，今後も継続するものである。今回の基本計画は，現行基本計画の後続となる計画として，御議論いただいている。

#### 上村委員

基本構想は同じものを踏まえることとし，その修正はない，ということか。

#### 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

そうである。

## 上村委員

基本構想は非常に格調高く、基本構想の理念、都市の理想、哲学など、これまでの経緯を踏まえた「思い」を継承しながら、新たな基本計画につなげていくという意味では、更に時代の背景をきちっと受けながら、かつ未来性を持ち、かつ具体的にどういう行動につながるかを分かりやすく体系付けられていることが、資料1で分かる。

資料2について、分野別方針の中で具体化されるので問題はないのかもしれないが、「歩いて楽しいまち・京都戦略」、あるいは「個性あふれる地域づくり戦略」について、クルマ社会からの完全な脱却を図るのは難しいので、「歩いて楽しいまち」、「公共交通優先」という大きな方向とともに、「クルマ社会といかに共存しながら」などの視点もあればより具体的で現実的ではないか。

京都の場合、まちづくりの観点で言うと、保全・再生・創造が京都市域全域の中でいっしょくたに語られていることが多く、まちづくりの議論をしていく中で輻輳する。これらは、どの地域にも入り混じるものだとは思いますが、個性あふれる地域づくり戦略の中でメリハリを付けるべきではないか。

「個性あふれる地域づくり戦略」の中の岡崎と山ノ内について、これだけ個別具体的なものが出てくるのはティピカルであるとの理由かもしれないが、保全・再生・創造のメリハリをつけながらということは、自然環境との調和や個性あふれる地域、またそういったものから離れ、「創造」していかなければならない地域も京都にはあるわけで、そういったメリハリが分かる文言があればと思う。

また、塚口部会長もおっしゃったように、安心・安全が文章の中にあるほうが分かりやすいと感じた。

## 宗田委員長

安心・安全に関しては、塚口委員の御意見も踏まえて検討したい。

先ほどの御意見は、現実的な交通体系、南部地域を意識した個性あふれる地域づくりを、との御指摘だと思う。岡崎などは、市有地の存在を踏まえたものであり、市有地が少ない南部地域では、市民の協力を得ながら進めなければならないが、メリハリのことについては、個性あふれる地域づくりが岡崎、山ノ内以外にもあるということで表現を検討し、御報告したい。

## 秋月委員

堀場部会長も同意見だと思うが、全体の印象としてもう一息分かりやすくないか。「他圏域との連携を深めながら」や「国際MICE都市」なども一見して分かる人が少ない。日本語をシンプルにしてはどうかと感じる。よくまとまっているが、堀場部会長は、活性化部会での表現にもシンプルにと言及されており、全体を通じてのトーンを打ち出す場として、市民からみた分かりやすさは、もう少し改善の余地があるかもしれない。

## 宗田委員長

今後、パブリック・コメントなどでも同じ問題が出てくる。文章は尾池会長にも御指し示いただき、直している点もあるが、市民に分かりやすいものとしていきたいので、引き続き御指摘いただきたい。

## 新川委員

感想になるが、未来の京都創造研究会で議論の大元となるものを議論してきた。かなり突っ込んだ議論をしたつもりだが、改めて議論いただいたものを見ると内容が深まっていると感じる。

都市経営の理念について、生活者の視点など、より具体的になっており、とても良い表現だと思う。一方で、自治の部分についての説明が、市役所の自治に限定されている印象を受ける。もう少し市民自身の自治というニュアンスがほしい。都市経営の理念の2つめの文章で、「京都市民は共に汗を流して」で止められているが、研究会では、自主的、自律的に行動する市民、というイメージを持っていた。この辺は表現の問題なのか、根本的な理念か分からないが御検討いただきたい。

次に、重点戦略について、それぞれ重点的なものとして納得しているが、産業や支えあいという観点で見たときに、弱い立場の人たちを支えることと、産業や経済が発展し、それが同時に環境と共生する、ということはよく分かるが、実際に人に着目した場合、例えば産業との関係では雇用される側の人の問題がある。就業場所があってもそれに対応する被雇用者側の能力が問われたりする。若年失業者の問題を想像いただければ良いが、被雇用者側に立った産業政策、雇用政策が必要な時代ではないか。

これまでは新しい産業を生むことでいずれは雇用に反映していくという考え方だったが、これがうまくいかなくなっている。雇用する側とされる側の両方から見なければ作業政策が成立しないのではないか。それが支えあいや環境共生ともつながると思う。それを更に重点戦略として新産業創造戦略の中で生かす道はないだろうかと思いながら話を聞いていた。

3点目は今後の書きぶりのこととなると思うが、未来像の5つとその相互関係が、重点戦略になればもっと具体的になってくる。「低炭素型まちづくり戦略」と「歩いて楽しいまち・京都戦略」などはしっかり重なるものとして、重点戦略がどの部分で重なるのかを具体的に表した方が分かりやすいのではないか。

## 宗田委員長

重点戦略がどこで重なるかという点は線で結ぶなど、検討したい。「歩いて楽しいまち・京都戦略」は「観光都市づくり戦略」、「個性あふれる地域づくり戦略」、「子どもを共に育む戦略」などとも関連してくる。図の作り方も考えていきたい。

1点目の都市経営の理念については、そもそも未来の京都創造研究会の文章が、つい先週の時点まで残っていた。その後、趣旨を変えることなく、検討を進めてきたつもりだったが、今おっしゃった市民の自治に対する意識は、本来基本構想の精神に十分出ており、更にそれを一歩進めるために、文章を大きく変えるつもりはないが、御指摘の趣旨を生かす方向で、新川委員と事務局で検討した後、尾池会長に相談したい。

2点目のことは、新川委員は、イタリアに行っておられて御存じだと思うが、イタリアでは、会社に人が合わせるのではなく、会社が人に合わせていく。イタリア人に性格を変えては、と注意したところ、性格を変えたら自分じゃなくなると言われ、日本人とは感覚が違うと感じた。

## 松山委員

未来像，重点戦略については全く文句がない。しかし，文句がないことが問題で，今出しているものは突っ込みどころがないが，むしろ重点戦略にしろ，結局やるべきことが全部書かれているのではないか。べたっとこれを書いて意味があるのか，ものが動くのかという印象がある。

例えるならば，四国が渇水となった場合，まずは水力発電，次に工業用水，農業用水を止め，最後に飲料水を止めるという優先順位がある。この優先順位があるから暴動も起きず渇水を乗り切っている。この重点戦略ではすべてに水を回すこととなっており，このままでは途中で水が蒸発してしまっていて回りきらない。京都はお金も人も足りない中で，これらをすべてやっていたら回らないのではないか。これだけは絶対やるという優先順位を付けなければ市民も私たちもどうしていいかわからない。それがないのであれば，基本計画を作る意味はないのではないか。

### 宗田委員長

先ほど西岡委員が部会のお話として「支えあい自治が息づくまち・京都」を未来像の上に配置してはどうかと御発言された。松山委員の未来像，重点戦略に優先順位を付ける，との御指摘や，立石副会長の「立場の弱い人」との御意見を踏まえ，自治体の存在意義が弱い立場の人を支えることにあるならば，一番上に持ってきても良いと思う。

### 松山委員

第1次案はこれで良いが，パブリック・コメントやシンポジウムなどで優先順位を市民に問いかけてはどうか。

### 宗田委員長

そういう議論はなじむだろうか。

### 塚口委員

松山委員の御意見についてだが，やはり未来像と重点戦略は全体を網羅して，ベクトルとしてはこういう方向性であると設定しておくべきかと思う。

例えば私の専門分野で申し上げると，「人と公共交通を優先する」とあるが，これは交通について，「歩いて楽しいという方向を選んでいる」，ということであり，交通についてのこのような考えを示すことは重要である。全体の方向性を示し，それぞれの分野でどういった性質を持たせるのかという議論になるのではないか。私は重点戦略それぞれに優先順位づけをすることは意味がないのでは，と思う。

### 松山委員

ということは，それぞれの重点戦略の中で政策を作る中で優先順位をつけるべきということか。

### 塚口委員

重点戦略検討時点においてどれが優先されるべきかと決めてしまうのはかなり厳しいことになるのではないか。皆さんの合意が得られるのかな，と思う。

## 宗田委員長

限られた財源、時間の中での選択と集中を、市民がいかにかえるか、我々専門家が考えるべきというのは同感だが、司司でしっかりとやっていかなければならないことは事実で、議論する中で合意形成ができるのかは重要。それが、新川委員の指摘した自治に関わることだと思う。基本計画に在り方にも関わるものかと思うがいかがか。

## 新川委員

難しい議論だが、基本計画の性質として、京都市、市民生活全体に関わる問題を取り上げざるを得ない。その重要課題を挙げてきたときに、その重要度に差は付けにくい。もう少し具体的な施策、事業で考えた方が考えやすいというのはそのとおり。

しかし、5つの重点を選んでしまった、というのは重く、多くの市政課題を切り捨てて5つにまとめているということは考えなければならない。

計画を作ることは、市民の「合意」と「市民が関わりながら」というプロセスを踏まなければならないが、実現していく中で考え直していくという関わりプロセスも用意しなければならない。そういったことは「計画の推進」などの項目の中で、計画の見直しや重点的要素の考え直しの手順、手続きが共有されてしかるべきかと思う。

## 西岡委員

参考資料の中で、加藤委員から、低炭素についてはこれで良いが、いのちの循環、いのちの支え合いの中で低炭素が打ち出されているなら、との意見が付けられている。単に未来像の順位を変えるのではなく、未来の安全のため、未来のいのちの循環のため、ということで低炭素がトップに来るのならばわかる、という指摘であることを補足する。

## 上村委員

基本計画というのは総花的にならざるを得ないところもあるが、優先順位は基本計画をベースとしながら、予算配分の中で議会が、政治の場で具体的に決定して承認していくものであり、そういう形でなければ、どれが最優先なのか、コンクリートなのか人なのか、福祉なのかということは議論が輻輳し、優先順位が付けにくいだろうと思う。

ただ、議論の中で浮かび上がってくる未来像、つまり環境や人間中心、歴史文化というところが最優先である、ということが、全体を網羅している中で最優先の思想として謳われている、と読み解くのが良いのではないか。大切なことをおっしゃっているが、市民が政治の場を含めて選択しないと優先順位は付けにくい。

## 浅岡副会長

自治の話ともつながるが、都市経営の理念の最後に、「生活者を起点にした未来像を共有し、実現への道筋を自ら作り出す」などをうまく盛り込み、それを「共に汗を流して」とつなげると良いのではないか。

それぞれがどうかかわるかであるが、一人の人がすべての分野にかかわったり、実現できたりするわけではないので、それぞれの専門分野においてかかわる中で、共通するもの、道筋を作り出すことに加わっていけるように書けば良いのではないか。

ある程度共有するところまでイメージ化してきたが、それをどう実現するかが分からないので今のような議論になるのだと思う。

## 乾委員

浅岡副会長に賛成する。優先順位はこの段階で付けるのではなく、こうなりたいという思いには優劣付けがたく、片方をやっって片方をやらない、とはなりにくい。こうありたいよね、という話に対して、でも京都はこうですよ、お金がないですよ、という話が横から突っ込まれる。そういう意味では市民に対する約束ではなく、問いかけであるべき。問いかけられた方は、知恵を凝らし、工夫を凝らして、我慢するなり、自分たちで考える話としてあるよ、ということだと思う。そういう意味でどう決めるかが市民に問いかけられている。そのためには行政も市民と共に考えるという、自治の話がある。

その中で、「個性あふれる地域づくり戦略」の中で岡崎、山ノ内だけが書かれているが、優先順位付けの中でこの事業がなくなれば無意味になる。「各地域が地域ごとに輝くことを応援する」ことが書かれていなければならない。そうすれば、本能学区みたいに自分のところが輝き、生業を作るところを褒めなければならない、そういう論理構造が入っていなければならない、これら二つを中心にしつつ、どうする、という話があればと思う。

## 宗田委員長

「個性あふれる地域づくり戦略」に入っているのは、地下鉄の大赤字を何とかしたいということだが、地下鉄の経営健全化だけでなく、京都市全体の地域を、という話は入っている。

計画の推進に関しては第2次案に向けて議論する中で、市民が主体的にかかわることなどを議論したい。

これまでの御意見は、未来像、重点戦略の構成を大きく変えるものではないと思う。未来像、重点戦略については、「未来の安心・安全」の御意見を踏まえてこれをベースに検討したい。

ここまでの議論を踏まえて、由木副市長から御意見があればお願いする。

## 由木副市長

庁内で議論すれば、私の課の仕事は計画のどこで読むのかとの議論が出てくる。

これに対し、今回は未来像としてどういうスポットを当てて議論していくのかを表している。そして、それを実現するために何をするかを重点戦略として書いている。そのため、これらは網羅的に書くものでない、と言いつけているため、一方で分野別方針はかなり縦割りとなっている。

頭の整理としては各委員のおっしゃったとおり、これをどう進めていくのかを審議会の中で、例えば「計画の推進」の中で、プライオリティの議論をしていただくことはありうらと思う。そういう視点からの御意見も引き続きいただきたい。

## 宗田委員長

以上の点を踏まえ、未来像及び重点戦略については微修正を加えて、第1次案の成案としたい。パブリック・コメントにかける段階で文章については、松山委員や皆様の御意見を踏まえながら精査したい。

続いて、分野別方針について御確認いただく。

分野別方針については、各共汗部会において御議論いただき、本日合計で27の案を

提出していただいている。すべての内容について確認していただく時間はないが、まず事務局から構成や今後の展開を含めて説明いただいたうえで、各部長又は副部長の皆様から、各分野の要旨を御説明いただきたい。

なお、基本計画の構成では、行政経営の大綱を分野別方針から独立して位置付けているが、分野別方針と合わせて御説明いただきたい。それでは、事務局から資料3、4について説明をお願いします。

### 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

まず、資料3について御説明する。この資料は、これまで各部会において、2回目から4回目の部会で御議論いただいたものを踏まえ、第5回部会に素案としてお示しし、御議論いただいたものであるが、完全に議論が終わったものではない。

全体構成について、大きな変更点としては、「消防・防災・都市づくり（建築物の安心安全）」という一つの分野としていたものを、「建築物」と「消防・防災」に分けた。

また、「市民生活」を「市民生活とコミュニティ」、「市民生活の安全」に分けることとしており、今後、部長にも御確認いただきながら、全体の体裁、政策指標の整理などを行って参りたい。

また、第2次案に向けては、政策を実現するための推進施策や施策指標などを各部会で御議論いただきたいと考えている。

なお、各部会の分野別方針の最初にそれぞれの部会名を冠した紙を付けているが、これは、乾うるおい部長から、部会の議論を貫く価値観を盛り込むべきとの御意見を踏まえ、他の部会でも御議論いただき、取りまとめたものである。まちづくり部会では都市構造をお示ししている。第2次案に向けてはこれを文章化し、最終的には基本計画の冊子の中で、各分野別方針の章扉としたいと考えているが、このような取り扱いについても御議論いただきたい。

次に、資料4について、行政経営の大綱は、今後10年間という次期基本計画の期間で市政を進めていくに当たっての基本計画の基盤となるものであり、市政を進めるための行政内部の方針として作成したいと考えている。

### 宗田委員長

次に、各部長又は副部長の皆様から、かいつまんで御説明をお願いします。

### 乾委員

事務局から説明があったように、なぜうるおい部会として色々な分野を議論するのかを議論した結果、市民生活をうるおいあるものにデザインするため、ということが確認された。

この扉は、第5回部会において、これまでに行われた各分野の議論の中身を確認する際、全委員が3つのテーブルに分かれ、それぞれのテーブルを回りながら意見交換をする中で全体を貫く話をし、それをまとめたものである。

その中では、「つながり合う、支え合う、分かり合う」、「地域コミュニティが基本」などが語られ、それを大事にしたい。重点戦略があって分野別方針がある、その間にうるおいとしてぶら下がるものとイメージしている。内容は、第5回部会での意見を事務局に入れてもらったものと御理解いただきたい。

次に、分野別方針の市民生活を二つに分けている。文章のところは変わっていないが、地域コミュニティと犯罪被害と消費者のことがセットとなるのは収まりが悪い、また、行政として安全を守る大切さなどを踏まえ、この分野を二つに分けてはと考えている。

また、政策指標については、数字で表しやすいものがある一方で、人権や文化などでは数字に表しにくく、かつ数字がふさわしいのかとの議論があった。例えば、青少年の分野では、「青少年活動センターで活躍するボランティア数」がふさわしいのかとの意見が出た。そのため、指標については、現在の検討素材とし、後日議論したい。

また、扉に「子どもに焦点を当て、10年後の青年たちを主人公に考える」と書いてあるが、10年後に青年になっている子どもたちに向けた基本計画を別に作ってはどうか、という提案であると御理解いただきたい。

## 宗田委員長

我々が子どものころは、比較的明快な未来があったように思うが、うちの子どもが高校生で、どんな未来を夢見ているかという、鉄腕アトムなどは描いておらず会話が成立しない。10年後の青少年に未来を伝えるのは我々の重要な使命。

乾委員から御説明いただいたが、市民生活を分けたことには同感で、コミュニティは安心・安全のためではなく、人生のうるおいのため、というのはそのとおりだと思う。

## 西岡委員

すこやか部会は、第5回部会で、子育て支援と保健医療、障害者福祉と高齢者福祉と地域福祉、学校教育と生涯学習の3つのセクションに分け、全員で議論した。

幅広い人の長いライフスパンのステージ、各ステージの様々な人に焦点を当てて話し合った。その中で「ひとりひとりの命を大切にする」、「すべての人を大切にしてともに暮らす社会」、「インクルーシブ」や「ノーマライゼーション」、「差別や格差のない社会」などがキーワードとして挙げられ、それらは「すべての市民が違いを認め合い、支え合っていく」ためである。ひとりひとりを大切に社会全体で子どもを育む、大人も学ぶ、福祉でも教育でもエンパワーメントが挙げられた。また、死生観については、第2回部会で山折委員から、我々が人生50年から人生80年時代となったことに対応できず、死の問題、生の問題を改めて検討すべきとの指摘を受け、死生観もキーワードとして挙げられた。

すこやか部会では、委員も様々な団体の方がおられ、様々な団体が連携、協力することが重要であるという大きな方向性は出ている。よく使われる言葉だが、連携、協働が有効に機能することは、本当に難しく、文字としては綺麗だが、実践には相当な工夫がいると思う。

また、説明、注釈等を入れていただいているが、ぱっと見て分かりにくいので、もう少し、日本語、文章、その他を分かりやすくする必要があると思っている。

## 秋月委員

活性化部会では、産業・商業などの5つの分野と行政経営の大綱を議論した。その中のキーワードとして、「人が集まり交流することによって活力が生まれる」、「ブランディング」、「市民が誇らしく思えるまち」、「子どもに京都の良さを伝える」などが挙げられた。「危機感の共有」については行政経営の大綱に関わるものである。

第5回部会では、二つのテーブルに分かれ、それぞれで正副部会長を取りまとめ役とし、一定時間後に各委員にテーブルを交代いただいて議論した。すべての項目について、完全に議論が熟して結論が出たというよりは、議論不足を事務局で補っていただいております、部会案までには至っていない。部会長からは、横文字を使わない、表現をシンプルに分かりやすくとの指摘がされている。

行政経営の大綱については、市財政が危機的状況にあることを視野に入れざるを得ず、それを共有することが大切であるとの指摘がされた。また、これまで市役所が頑張ってきたことは照れずに書くべき、との意見が出た一方で、市の財政努力を語るのもそぐわないという意見もあり、現行計画でもその記述は少ない。その中での原案であり、財政指標などを打ち出すべきとの強い指摘は委員からなかったが、私の意見としては、市民と共有するメッセージ性が必要であり、財政や都市経営の問題がうまくいかなければ様々な未来像、戦略が画餅に帰してしまう。そのため、何が何でも財政破綻を避けるというメッセージを入れるのか、などの議論の余地がある中で議論を進めてきた。

#### 松山委員

「ラグジュアリー」、「プラットフォーム」などの用語は、日本語で書かなければ分からない。

#### 宗田委員長

「ラグジュアリー層」を「富裕層」というのも生々しいのかもしれない。

#### 西岡委員

すこやか部会でも「ノーマライゼーション」は訳しようがなく、そのまま注釈は不要との意見だった。日本語でも、意味が分からないものには説明を付けるが、カタカナだから計画に取り入れないのではなく、そのまま使おうという意見であった。

#### 宗田委員長

観光の分野での「ラグジュアリー層」はゴールドカードホルダーより上の方を表すのだと思う。これも分かりやすい言い方ではないが。

#### 松山委員

専門家以外にも分かりやすい言葉の方が良いと思う。

#### 西岡委員

「ボランティア」などは定着しており、分かれば良いのだと思う。ただ、そんなに分からなくとも新しい概念は使っていこう、との意見が出されていた。

#### 松山委員

「ノーマライゼーション」、「エンパワーメント」、「インクルーシブ」などは難しいと思う。

#### 宗田委員長

行政経営の大綱について、市民にどう示していくかを融合委員会で議論したい。活性化部会の委員の方だけに任せてはおけないと思うが、いかがか。

#### 上村委員

「地域主権時代」について、私自身は、行政用語として制度にまで踏み込んだものではなく、都市経営の理念も含め「地域主権時代」を市民自治、住民自治の精神哲学と解釈していた。しかし、行政経営の大綱では、京都市が独立国になるような気概が立ち上がってきており、制度改革にかなり踏み込んでいる。これを踏まえると「地域主権時代」とは、どういうものなのか。きっちり考えないと安易に使えない気がしてきた。

#### 秋月委員

「地域主権時代」という言葉については、活性化部会で一切議論していない。ある時期まで私も抵抗してきたが、10年後もこの言葉が使われているか。ここでは、法的な主権というよりは、何となく頑張っていこうという使われ方であり、怠慢と言われるかもしれないが、計画の中で行革、財政の問題をどう入れるかに議論が集中し、この言葉について、最終的に副題として入れるかまでは議論されていなかったもので、そういった議論もしていただきたい。

#### 宗田委員長

地域主権と言った時の主体が市役所なのか、市民なのかという点である。

#### 浅岡副会長

地域で必要なお金は地域で調達できる体制が必要というのはそのとおりだが、過去の赤字累積をこれからの財政で埋めることにはならず、そこが混同されている。地域主権的に税財政も併せて検討することは必要。

#### 事務局（西村総合企画局長）

先ほどの上村委員の御意見は、行政経営の大綱の中の地域主権時代についてなのか、地域主権時代という言葉の基本計画の中では使わないということなのか、どちらか。

#### 上村委員

都市経営の理念では抽象的な概念として「地域主権」を使っていると思っていたが、大綱のなかでの「地域主権」の使われ方では、道州制、地方分権、三位一体改革などもあるなかで、かなり制度として踏み込んでやっていくという政治的色彩の強い概念に思えた。そうなってくると、「地域主権時代」とはどのような時代なのかというモデルがまだ京都市として具体的に描けていないのではないか。300の地方自治体プラス国家になるとか、道州制などの議論があるなかで、抽象的な概念としてとらえるのは良いが、政治的行政用語としてはふみきれない感じがした。

#### 事務局（西村総合企画局長）

第1回総会にお示しした京都市基本計画策定方針において、策定の趣旨として「地域主権時代のモデル都市を目指した計画を」との未来の京都創造研究会の提案を踏まえた

流れで都市経営の理念も出てきている。この地域主権の言葉を説明する中で、市民自治などを盛り込んだ概念であるとの説明をしている。それを都市経営の理念、行政経営の大綱で使うべきなのかということも御審議いただければと思う。

### 宗田委員長

都市経営の理念を受けて、市役所の立場として行政経営の大綱を書くとなさる、ということを書いていただいております、その立場の違いが明確に表現できていればよかったです。税金、コンプライアンスなどの現状課題が挙げられ、それを受けて4つの方針が挙がっているという流れは良いが、市民が強く地域主権を望むならば、市もそれに応じた行政経営を示すというようにしてはどうか。

### 西岡委員

私も地域主権時代を漠然ととらえていた。基本方針1の(1)、(2)は地域コミュニティ活性化懇話会でも話し合ったが、(3)の国と地方の形を変えるために、までいくと、違う意味があったのかととらえられる。宗田委員長がおっしゃったように分けて書くことが必要ではないか。

### 松山委員

行政経営の大綱など、こういうところには、良いことしか書かれていない。これだけお金を削ったことによるマイナスの作用も出してもらわなければ判断材料にならない。そういうことも詳らかにしていただきたい。また、色々オプションがある中で選ぶ流れ、他の選択肢もあったがこれを選択したという流れが示してあると良いのではないか。

### 宗田委員長

ネガティブなことは我々も見つけるのが仕事だと思う。市に言ってもらうまで知らずにいけば良いということではない。

続いて、まちづくり部会の分野別方針について、御説明をお願いします。

### 塚口委員

本日冒頭の事務局説明にもあったが、まちづくり部会では分野が一つ増え、8つの分野になっている。

また、「まちづくり部会」という名前の部会に「都市づくり」があるなど、分野名が分かりにくいとの指摘もあった。そのため、「都市づくり」を「土地利用と都市機能配置」という分野名としたほか、「都市基盤」についても、道路や公園以外も含めた概念であるため、「道と緑」とさせていただいた。

それからまちづくり部会の扉に都市構造の方向として、4つの方向を示している。

まず、基本的な考え方として、「基本構想の保全、再生、創造の枠組みを継承しつつ、歴史文化が調和する、コンパクトで個性豊かな地域がネットワークする都市を目指す」と掲げ、3つの視点として、「持続的な都市づくり」、「京都らしさの継承・充実」、「都市空間のマネジメント」を掲げた。

また、各分野の中のみinnで目指す10年後の姿について、これは、まちづくり部会だけでなく、これまで御紹介いただいた他の部会も同様だが、政策の目標の中で何が重

要なのかと言うと、みんなで目指す10年後の姿のはずである。だが、政策指標が非常に目立ちすぎているので、もう少し小さく書けばとも思うが、小手先のことだけでなく、10年後の姿を分かりやすくするために整理する必要があるのではないか。政策指標は、10年後を評価するための一つ的手段であり、無理やり定量化されていると感じるものもある。定量化する方向性も大切だが、政策指標だけが目立つのではなく、目指す姿を市民に読んでいただけるようなレイアウトが必要ではないか。私自身の反省も含め、他の部会でも御検討いただきたい。

まちづくり部会は、8つの分野で議論したが、個々の分野である程度完結している。比較的まとまった議論ができたかと思うが、まとまったものを眺めると、関連が強いものや複数の分野にまたがるものもあり、今後、この8つの分野をどのように整理していくのか、まちづくり部会の中で整理する方法を考えるとともに、この融合委員会の仕事だが、他の部会との調整もあればうまくいくと思う。

#### 宗田委員長

他の部会との調整については融合委員会でも議論したい。政策指標などについては重要な提言で、他の部会についても同意いただけるだろうか。

#### 乾委員

うるおい部会の報告でも指標について申し上げたとおり、御意見に賛同する。

#### 浅岡副会長

指標は参考や例示としても良いかもしれない。

#### 西岡委員

政策指標を一番下に持ってきても良いのではないか。

#### 宗田委員長

御検討いただき、全部会で統一いただくことにしたい。

#### 浅岡副会長

それでも政策指標が目立つと思う。市民と行政の役割分担と共汗の部分も大切だが、これがきちんとできているかが心配で、現状をあまり脱していないものに見える。政策の目標が本当に五つの視点を頭に入れて見直しているだろうかという点は最終案になればなるほど、現状施策を踏まえたものとなってしまふ。新しい発想で見直したものを入れることが大切である。

#### 宗田委員長

以上の点を踏まえ、分野別方針及び行政経営の大綱については、各部長に担当分野をお任せしたいがよろしいだろうか。

———（異議なし）———

## 宗田委員長

以上で、第1次案のすべての項目について、確認させていただいた。

今後、尾池会長及び平井副委員長とも御相談しながら、本日頂戴した御意見を踏まえ第1次案を作成して参りたいと考えているので、内容については一任をお願いしたいが、よろしいだろうか。

なお、第1次案の作成後、5月下旬に予定している公表までの間に、各委員の皆様にも御送付させていただく予定としている。

———（異議なし）———

## 宗田委員長

それでは、そのようにさせていただく。

さて、私たち審議会が議論してきた基本計画の第1次案について、広く市民の皆さんに知っていただき、また御意見をいただく市民参加事業として、パブリック・コメントとシンポジウムを5月に実施する予定としているので、実施方法等について、事務局から説明をお願いします。

また、平井副委員長に監修していただき、松山委員が議長を務められている「未来の担い手・若者会議U35」とともに、未来像をビジュアル化する方法や、パブリック・コメントの冊子のあり方や実施方法など、広く市民から意見を聴取する方法について御議論いただいているので、お二人からも補足説明をいただきたい。

まず事務局から資料5、6について説明をお願いします。

## 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

資料5について、パブリック・コメントは京都市基本計画審議会でご議論いただいていることから、審議会から市民の皆様にご意見を問う形をお願いしたいと考えており、5月下旬から1箇月間行いたい。パブリック・コメントに使用する冊子の編集方針は、より多くの御意見をいただく形といたく3点を掲げている。

また、通常パブリック・コメントは、ホームページ等に掲げるだけだが、目立つ場所への回収箱の設置や、シンポジウムでの意見の引き出しのほか、色々な場所に出かけて意見を伺うことも考えたい。また、親しみやすい基本計画の名称についても募集して参りたい。

資料6について、シンポジウムは、市の主催で未来の担い手・若者会議U35の御協力をいただきながら実施したいと考えており、平成22年5月29日（土）、新風館で行いたい。実施に当たっては、多様な人が自由に参加できる工夫、審議会と市民をつなぐ、参加したいと思える雰囲気づくりを重視したい。また、当日は審議会委員の方にパネリストとして御参画いただくとともに、未来の担い手・若者会議U35の方の御協力も得ながら実施したいと考えている。

## 宗田委員長

それでは、平井副委員長から、パブリック・コメントについて補足説明をお願いします。

## 平井副委員長

私も、未来の担い手・若者会議U35のパブコメ担当の会議に参加し、一緒に議論させていただいている。大きな方向性として、10年後の未来を語っていることから、できるだけ10年後の担い手である高校生や大学生など、これまで、まちの未来や京都市行政に興味のなかった方々に意見を述べていただける運動を展開したい。これを未来の担い手・若者会議U35で考えていただくこと、そのことも大切である。

パブコメは、実施主体を審議会としており、私たち審議会のスタンスは、一生懸命考えて作成した第1次案について、より多くの市民の方々にも一緒に考えてもらいたいということになると思う。また、未来の担い手・若者会議U35は、第1次案そのものの作成にはかかわっていないため、審議会が作成した京都市の未来の案について、自分の事としてとらえ、自分たちも意見を出すから、一緒に意見を出そうと呼び掛けてもらう「呼び掛け人」として頑張らせていただくという、それぞれのスタンスの違いを出しながら、チラシや冊子の表紙を考えていきたい。

資料1の京都の未来像、重点戦略が、市民の皆様と共有する、市民全員が持つ夢に近いものになっていければと思っているので、その辺りに皆様の意見が集まってくるものとしたい。

分野別方針については、どちらかという各局が自分の仕事を分かりやすくするためのものであり、未来像に向けて意見をもらうための基本計画の冊子づくりにおいても線引きをして考えたい。

また、先ほど、乾委員からお伝えいただいた意見と同じように、未来の担い手・若者会議U35でも子どもたちに向けた冊子が必要との意見が出ていた。

未来の担い手・若者会議U35では、パブリック・コメントに意見を寄せる人は従来から行政に興味を持っていた人であり、本当に子育てをしている人など、意見を聞きたい人に手に取ってもらえるものとしたいので、図書館だけでなく、高島屋や伊勢丹、大丸などのデパートやタクシーの背もたれなどに配置するなど、できるだけ今までよりも色々な方に意見を述べていただければと考えている。今回は、第1次案であり、意見を言っていたきやすい「すき間」が多い形とすることで、意見を述べていただければと思っている。

## 宗田委員長

未来の担い手・若者会議U35の代表である松山委員から補足説明をお願いする。

## 松山委員

シンポジウムを中心に説明させていただく。パブリック・コメントとシンポジウムは表裏一体、同じコンセプトで実施し、未来像を広く知っていただくとともに、御意見をいただくことに主眼を置いたものとしたい。

シンポジウムの名称は今のところ「どうすんねん京都?!」、サブタイトルとして「次期京都市基本計画シンポジウム」としている。あまり硬いシンポジウムとならないように、と考えている。京都らしさということでは「どないしはります京都」という案もあったが、他人事と思えるために、この案とした。

また、京都でのCOP3の時に、清水の舞台をもじり、潮水の舞台として、清水の舞台が潮水に浸かったポスターがあった。このように、今までのシンポジウムとは趣向を変え、例えば京都御所にヤシの木が生えているイラストの前に温暖化の数字を出す、京

都の大学生の85%が京都以外で働きたいと思っているなど、京都の人が知らないけれども、おっと思う数字や、火災件数の少なさなどの京都が誇るべき数字を出し、防火活動の大切さを意識してもらおうなど、京都の現状を知っていただき、10年後をこれからどうしようかとの意見をいただく、という方針で実施したい。

### 宗田委員長

パブリック・コメントは、未来像と重点戦略のところが厚くなる。シンポジウムも含め若い方の御意見をいただくために、未来の担い手・若者会議U35の方に御検討いただいております。ある意味フリーハンドで未来の担い手・若者会議U35に任せることを御了承いただきたい。

### 平井副委員長

現在検討中のパブリック・コメント用の冊子では、表紙をめくると小学生の子どもたちが描く未来の京都の絵があり、次に大人たちが議論している様子として、審議会委員がイラスト化されている。検討中であり、お渡しすることはできないが、案をお見せするので、できれば御了承いただきたい。もし、私はこのイラストでは困るという点があれば御指摘をいただきたい。

### 乾委員

若者向けに展開するのはとても良いことでぜひ聞いてもらいたい。一方でおじさん、おばさんの意見も聞いてほしい。できればいいが、区基本計画審議会に流すべきものではないか。市基本計画が自分たちの区に置き換えるとどうなのかを考えてもらえる。また、出前トークをしているように、市民活動の場に出て説明します、と言えはセンセーショナルではないか。

### 宗田委員長

出前トークなど既存の仕組みを使い、積極的な御意見をいただくなど、より幅広い市民の皆さんの御意見を聞いてもらいたい。また、通常の仕組みではなかなか集まらない若者の意見も集めてもらう形で検討をお願いします。

それでは、今後、尾池会長及び平井副委員長とも御相談しながら、未来の担い手・若者会議U35の皆さんのお力もお借りして、パブリック・コメントやシンポジウムをはじめとする市民参加事業を実施して参りたい。

最後に、尾池会長から、本日の議論を総括して、一言お願いします。

### 尾池会長

今日の雨で、ソメイヨシノが散っていたが、これはこの委員会にふさわしいとてもいい現象である。桜は受粉して実がなると決まれば散るが、実がなると決まるまでは散らない。それを踏まえれば、今日はまさに良い日で、本日の結果は、これまでの皆様の議論の賜物である。

本日は、言葉の議論が多くされたと思う。子どもに分かる書き方としていくことは大切。また、できるだけ横文字を使わないと言いつつ、パブリック・コメント、シンポジウムなどもカタカナであり、外来語を取り入れることができるのも日本語の大きなメリ

ットといえる。以前、「様々なイベントなどの行事，催しがある」と言われたことを思い出したが，これらは「催し」の一言で表せるものである。このような言葉の整理が必要と感じながら聞いていたが，今日，まさにその議論が行われた。

また，本日の議論では，「安心・安全」ということも多く語られた。国のいろいろな議論においては，「安全・安心」と使われる。安全は政策の対象となるが，安心は市民の気持ちであり政策の対象となりにくいため，このような順番になるという。安心・安全と，安全・安心は違う。今日の議論でも複数の委員が使われたが，安心・安全と安全・安心が半々であった。どちらを取るかで市民主権かどうかが決まる。

由木副市長がおっしゃったことについて，行政は，基本計画のどこに自分の仕事がかかれているのかといった視点ではなく，基本方針が明確に決まれば，それに合わせて京都市を改革して行ってほしい。それをこれから考えてもらうことをお願いしたい。今日はその辺がまとまってきた，見えてきたという印象である。

私は，シンポジウムの開催を予定されている5月29日には別件の用事があるので，ビデオメッセージなどで協力したい。事前打ち合わせの際に，私は「こういったイベントには新風館が一番」と言ったが，実は新風館で検討していると聞き，うれしかった。協力できることがあれば，どんどん協力したいので，よろしく願います。

#### 宗田委員長

続いて，京都市からの感想を，由木副市長から願います。

#### 由木副市長

この会議は，出れば出るほど中身が深まっていく会議で大変楽しみにしている。先ほどの尾池会長の御指摘は，目から鱗であり，この基本計画が基となるということを経営の大綱などに書いていきたい。

#### 宗田委員長

最後に，今後の進め方について，事務局から説明を願います。

#### 事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

今後，正副委員長のほか，分野別方針については，各部会長に御確認いただき，第1次案を取りまとめたい。その後，パブリック・コメントを行い，出された意見への対応案の検討や更に計画案を深めるため，第5回融合委員会を6月下旬以降に開催し，8月に第2次案を取りまとめたい。引き続きよろしく願います。

#### 宗田委員長

本日の審議会は以上で終了する。長時間にわたり御議論いただきお礼申し上げます。

<終了>